

## 第4学年 社会科学学習指導案

大和郡山市立郡山西小学校

島 俊彦

### 1. 小単元名

五條市の郷土食「柿の葉すし」

### 2. 小単元の目標

・五條市で柿の葉すしがたくさん作られるようになった理由は、地形や気候、歴史や文化、交通、人々の生活など、様々な要因がつながっていることを理解することができる。

(知識・技能)

・五條市で柿の葉すしがたくさん作られるようになった理由調べ、友達と意見を交流することを通して、自らの意見を深め、分かりやすく伝えることができる。

(思考・判断・表現)

・目的に応じて資料を活用し、自分の考えを根拠を示して発信することができる。

(主体的に学びに向かう態度)

### 3. 小単元について

#### ・教材観

本小単元は学習指導要領解説、内容の(6)「県(都,道,府)の様子について、次のことを資料に活用したり白地図にまとめたりして調べ、県(都,道,府)の特色を考えるようにする。」の、ウ「県(都,道,府)内の特色ある地域の人々の生活」にあたる。

前小単元では、奈良県の様子を、地形や産業、交通、人口などの視点から概観する学習を行った。本小単元では、概観から具体へという学習の流れに沿い、特色ある地域として五條市を取り扱う。

五條市は、紀伊半島のほぼ中央、奈良盆地の南西部に位置する。北は大阪府、西は和歌山に隣接する、県境の地域である。面積は292.02平方キロメートル、飛鳥時代の昔から伊勢、和歌山、大阪、高野、吉野など南和地域の中心拠点、交通の要として栄えていた。平成17年には、旧大塔村、旧西吉野村を編入し、市域を南に大きく広げた。五條市では、旧西吉野村を中心に、山の斜面を生かした柿づくりが盛んである。柿の生産量は市町村別の日本一を誇る。五條市を代表する産業である。

五條市を取り扱う際、柿生産を教材として用いることが多い。しかし、地形や気候、歴史や文化、交通、人々の生活など、様々な要因からより広く五條市の特色や人々の生活を捉えることができると判断し柿の葉すしを、より適切な教材と考えた。

原材料である鯖は、和歌山県運ばれてきていた。内陸である五條市では、鯖を手に入れることはできない。和歌浦産の鯖が木材との物々交換によって紀の川を上ってきたり、熊野灘から山を越えて行商にきた漁師が、渋柿との物々交換の為に持ってきたりしていた。これらの事実を調べさせることで、五條市と紀州の交通の繋がりを捉えることができる。

柿の葉は、山になっている柿の木から取っていた。五條市は、柿づくりが盛んな地域である。日当たりの良い山の斜面が多く、取り入れ時の気温差が大きく雨が少ないなど、柿づくりに適した条件が揃っているからである。これらの事実を調べさせることで、五條市の気候や地形を捉えることができる。

柿の葉すしは、晴れの日食べるごちそうであった。7月の夏祭りの頃、各家庭で手作りされていた。握られたおにぎりの上に、塩漬けされた鯖を、そぎ切りにしてのせる。それを一つずつ柿の葉で包み、桶の中に詰め込む。その上から重石をのせ三日程度寝かせた後に食べられていた。余ったものは再度重石を

のせ、何日間にもわたって食べる。保存食として重宝されていた。これらの事実を調べさせることで、五條市の歴史や文化、地域の人々の生活を捉えることができる。

#### ・指導観

「みつめる」「しらべる」「ふかめる」「ひろげる」という、問題解決的な学習の過程に沿って、本小単元の指導を展開する。

「みつめる」段階では、児童へ調査した、奈良県の有名なものアンケートの結果を、ランキング形式で発表していく。上位にランクインした柿の葉すしを教室に持ち込むことで、柿の葉すしと出合わせる。

次に、柿の葉すしは、どこで作られているのかを児童に問う。柿の葉すしが入った紙袋のラベルから、五條市で作られていることが分かる。その事実を調べさせることで、五條市と出合わせる。「なぜ五條市で柿の葉すしがたくさん作られているのだろう」と学習問題を設定するとともに、問題に対する予想を立てさせる。また、何をどのように調べて予想を確かめていくかという学習計画を立てさせることで、児童が学習の見通しを持てるようにする。

「しらべる」段階では、予想や学習計画に基づいた調べ学習を、同じ興味関心ごとに組織された小集団で行わせることにした。インターネット、副読本、インタビュー、五條市や柿の葉すし会社が発行したパンフレットなど、児童が目的に応じて資料を活用できるよう支援する。

調べた事実や根拠は、個人のノートに記録させるとともに、小集団ごとに模造紙（1/4サイズ）へまとめて発表させる。自分たちと異なる事実を調べた小集団の発表を聞くことで、なぜ五條市で柿の葉すしがたくさん作られているかについて、その理由を、交通、地形や気候、歴史や文化といった、五條市の地域の特色や人々の生活から捉えさせたい。五條市では様々な要因が合わさって、郷土食として柿の葉すしが根付いたということに気付かせたい。

また、五條市で59年間大衆食堂を営む、湧本静子さんのインタビュー動画を児童に見せる。五條市で柿の葉すしが郷土食として根付いた理由を、湧本さんの経験や営みからも見出させたい。

「ふかめる」段階では、現在市販されている柿の葉すしの多くが、原材料を国内遠方や海外から取り寄せているという事実を提示する。その上で、「五條市の郷土食は柿の葉すしといえるだろうか」とねり合いのテーマを設定する。調べてきた事実や根拠を基に、自分の立場を明確にして話し合わせる。その際、自分と異なる考えや意見と交流することで、視野を広げたり、根拠となる事実の理解を深めたりするために話し合うという、目的を児童に自覚させたい。

「ひろげる」段階では、桜井市の郷土食である三輪そうめんを取り扱う。桜井市で三輪そうめんが作られるようになった理由について、地形や気候、歴史や文化、交通、人々の生活など、様々な視点から考えさせる。五條市の学習を通して身に付けた見方・考え方を働かせて、桜井市の特色や人々の生活を捉えられるようにしたい。

#### ・ESDの視点

##### 【持続可能な社会づくりの構成概念】

I 相互性：五條市では地形や気候、歴史や文化、交通、人々の生活など、様々な要因が関わり合って柿の葉すしが郷土食として根付いた。

VI 責任性：柿の葉すしは、生産に携わる人々の努力や工夫、願いによって今なお五條市で作り続けられ、全国に広まっているという事実から、郷土の文化を守り次代に伝えていく。

##### 【重視する能力・態度】

- ③多面的、総合的に考える力
- ④コミュニケーションを行う力
- ⑤他者と協力する力
- ⑥つながりを尊重する力

#### 4. 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学びに向かう態度
①五條市で柿の葉すしがたくさん作られるようになった理由は、地形や気候、歴史や文化、交通、人々の生活など、様々な要因が重なっていることを理解している。	①五條市で柿の葉すしがたくさん作られるようになった理由を調べ、友達と意見を交流することを通して、自らの意見を深め、分かりやすく伝えている。	①目的に応じて資料を活用し、自分の考えを根拠を示して発信している。

#### 5. 小単元展開の概要（全7時間）

	主な学習活動	●学習への支援 ・「資料」	評価
み つ め る ① ②	<p>○奈良県アンケートの結果から、柿の葉すしに目を向ける。</p> <p>○柿の葉すしを食べ、原材料を調べる。</p> <p>○柿の葉すしの袋に貼られたラベルを手掛かりに、柿の葉すしが作られている場所(五條市)を調べる。</p> <p>○五條市で柿の葉すしがたくさん作られていることを知り学習問題をつくる、</p>	<p>●柿の葉すしを児童に食べさせ、味や原材料（鯖,酢,米,柿の葉）を捉えさせる。</p> <p>●柿の葉すしの製造地を捉えさせる。 ・柿の葉すしの袋に貼られたラベル。</p>	
	<p>○学習問題に対する予想を立て、学習計画を考える。</p> <p>○調べたい予想ごとに、小集団をつくる。</p>	<p>●前小単元での学習をふまえ、地形や交通の様子など、様々な視点から予想を考えさせるようにする。</p> <p>●五條市で柿の葉すしがたくさん作られるようになった理由について、自分の調べたい予想を選び、同じものを選んだ児童ごとに小集団をつくらせる。</p>	

なぜ五條市で柿の葉すしがたくさん作られるようになったのだろう

<p>しらべる ③ ④ ⑤</p>	<p>○小集団ごとに、五條市で柿の葉すし作りが盛んになった理由について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柿づくりが盛んだから</li> <li>→五條市の地形や気候</li> <li>・鯖が手に入るから</li> <li>→五條市の交通</li> <li>・昔から作られ、食べられていたから</li> <li>→五條市の文化や歴史</li> </ul> <p>○小集団ごとに、調べたことを、模造紙にまとめる。</p> <p>○五條市で柿の葉すし作りが盛んになった理由について調べたことを、小集団ごとに発表・交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童が調べやすい資料を準備する。</li> <li>●調べたことは、ノートに記録させる。</li> <li>●それぞれの理由を調べる過程を通じて、五條市の特色や地域の人々の生活を捉えさせるよう声掛けをする。</li> <li>●調べたことを模造紙にまとめさせる。</li> <li>●発表を聞いて新たに分かったことを、ノートに記録させる。</li> </ul>	
<p><b>五條市で柿の葉すしがたくさん作られるようになった、理由は何だろう。</b></p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●地形や気候、歴史や文化、交通、人々の生活など、様々な要因が合わさっていることを確かめさせる。</li> </ul>	
<p>ふかめる ⑥ (本時)</p>	<p>○市販されている柿の葉すしの原材料の多くが、国内遠方や海外から取り寄せられていることを知る。</p> <p>○学習問題について自分の立場を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地図を提示し、市販されている柿の葉すしの原材料の多くが、国内遠方や海外から取り寄せられていることを、視覚的に理解できるようにする。</li> <li>●自分の立場とその根拠をノートに書かせる。</li> <li>●自分の立場を、名札マグネットで表現する。</li> </ul>	
<p><b>五條市の郷土食は柿の葉すしと言えるだろうか</b></p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●前時までの学習を生かし、桜井市で三輪そうめんが郷土食として根付いた理由を、地形や気候、歴史や文化、交通、人々の生活など、様々な視点から考えさせるようにする。</li> </ul>	
<p>ひろげる ⑦</p>	<p>○桜井市の郷土食が三輪そうめんである理由について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前時までの学習を生かし、桜井市で三輪そうめんが郷土食として根付いた理由を、地形や気候、歴史や文化、交通、人々の生活など、様々な視点から考えさせるようにする。</li> </ul>	
<p><b>県内他地域の郷土食について調べよう。</b></p>			

1 1. 本時について

本時の目標

- ・学習問題について話し合うことで、自分の視野を広げ、より確かな根拠をもつことができる。

	学習活動	指導上の留意点	評価
	<p>1. 市販されている柿の葉すしの原材料の多くが、国内遠方や海外から取り寄せられていることについて、自分の感想を述べる。</p> <p>2. 学習問題を確認する</p>	<p>・地図を提示し、市販されている柿の葉すしの原材料の多くが、国内遠方や海外から取り寄せられていることを視覚的に理解できるようにする。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>五條市の郷土食は柿の葉すしと言えるだろうか。</p> </div>			
	<p>3. 学習問題について自分の立場（言える・言えない）を決める。</p>	<p>・自分の立場と理由を、ノートに書かせる。</p> <p>・自分の立場を、名札マグネットを使って、黒板上に表現させる。</p>	
	<p>4. 学習問題について話し合う。</p>	<p>・自分と異なる考えや意見を交流するという、話し合いの目的を伝える。</p> <p>・様々な意見が交流できるように、児童の意見を関連付けて板書する。</p> <p>・児童の考えを揺さぶるような資料を用意する。</p>	<p>イ ① 発言</p>
	<p>6. 話し合ったことを基に、学習問題について振り返る。</p>	<p>・学習問題について、話し合いを通じて考えたことを振り返る。</p>	<p>エ ① 発言 ノート</p>